



国立大学法人京都大学



バイエル薬品株式会社

News Release

バイエルと京都大学 産官学連携本部 研究候補主題の探索において協力

- バイエルの研究注力領域において提携契約を締結
 - バイエル薬品の新組織「オープンイノベーションセンター」と、京都大学 産官学連携本部が契約の推進役・窓口を担当
-

ドイツ・レバクゼン、京都、2014年10月16日 — バイエル ヘルスケアと国立大学法人京都大学 産官学連携本部は、バイエルの研究注力疾患分野(循環器、腫瘍、血液、婦人科、眼科など)において共同で創薬研究候補主題を探索する2年間の提携契約を締結しました。

今回の提携契約は、京都大学の研究や産学連携活動をさらに活性化するとともに、京都大学の高いアンメット・メディカル・ニーズに関連する広範囲の研究領域 [医学・薬学・生命科学・農学・理学・工学研究科および多数の研究所・研究センター] における革新的なアプローチを共同で活用し、バイエルの創薬や開発の専門性と組み合わせることを目的とした戦略的研究提携に向けての第一歩です。バイエル薬品株式会社に発足した新組織オープンイノベーションセンター(ICJ)は日本におけるこの契約の推進役・窓口を担います。京都大学の推進役・窓口は産官学連携本部です。

ドイツ・バイエル社経営委員会委員でイノベーション担当のケマール・マリックは、「日本において、バイエルは人々の健康のために100年以上にわたり操業してきました。名高い京都大学との連携は、バイエルが日本の医薬品市場に継続してコミットする表れであり、日本のイノベーション力に対する確信でもあり、新組織オープンイノベーションセンターの重要性を強調するものです」と述べています。

この提携契約を推進した前 京都大学理事・副学長(渉外・産官学連携担当)、前 産官学連携本部長の小寺 秀俊(現 工学研究科教授)は「150年以上の歴史がありグローバルネットワークを持つバイエルと、自由な学風のもとで豊富な研究を擁する京都大学が、シーズ探索に向けて協力できることは大変有意義であり、京都大学の産学連携活動をさらに活性化するとともに、基礎研究と将来の新医薬品創成への橋渡しを行うことが私たち共同の使命だと考えています」と述べています。

また、バイエルヘルスケア社経営委員会委員でグローバル創薬研究責任者のアンドレアス・ブッシュは「世界の患者さんに向けて新しい治療オプションを創薬し開発するには、産学の素晴らしいパートナーとの連携が鍵となります。日本におけるトップクラスのアカデミアである京都大学と、提携契約を締結することができ、非常に喜ばしく思っています。この契約は、日本のイノベーションの潜在能力を活用させていただく基盤となります」と述べています。

本契約により、両者は、循環器、腫瘍、血液、婦人科、眼科などのバイエルの主な疾患領域に関連する京都大学の広範囲にわたる基礎研究を新医薬品創成に応用できるプロジェクトを特定することにフォーカスします。年に3～4回にわたり、共同会議「アゴラ バイエル」を開催し、京都大学の研究者が研究実績をバイエルに紹介し議論を行います。「アゴラ バイエル」の結果をもとに、具体的な検討に進んだ場合、京都大学産官学連携本部は仲介役として調整を行います。

京都大学産官学連携本部(KU-SACI)について

京都大学は、教育、研究に加え、大学の第三の使命としての社会貢献にも取り組んでいます。社会貢献、すなわち大学の研究成果を技術移転によって社会に還元するために、京都大学においては産官学連携本部を中心として、特許ライセンスや大型の共同研究など、企業との産学連携を推進してきました。その結果、特許ライセンス収入や共同研究費の規模は、全国でも1位・2位のレベルを誇っています。京都大学産官学連携本部では、米国や欧州において長い歴史と多くの成功例をもった大学、研究機関、企業との連携を深め、産学連携に携わる方々との国際的なネットワークを築いてきました。世界の産学連携の仲間とともに多くを学び、情報を交換し、わが国の産学連携のさらなる発展を図ってきました。また、京都大学で育て上げられたシーズが育成され、社会に貢献するまでに必要な知識・経験・ノウハウを集約し、研鑽を重ねてきました。世界の中では産学連携の展開が決して優位にあるとは言えないわが国にあっては、京都大学産官学連携本部は大きな意義をもった活動を展開していると自負しています。

詳細は Web サイト(<http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/>)をご覧ください。

バイエル・オープンイノベーションセンター (ICJ) について

オープンイノベーションセンターは 2014 年 6 月 1 日付でバイエル薬品の開発本部内に立ち上げた組織です。日本国内を対象とし、アンメット・メディカル・ニーズが高い病気的作用機序解明、および革新的治療薬の開発を促進する有望な共同研究を特定することが主な活動です。ICJ の活動を通じて、バイエルはアカデミアやベンチャー企業とのネットワークを強化し、バイエルの専門領域における共同研究や提携機会を開拓することを目的としています。

詳細は Web サイト(<https://openinnovation.bayer.co.jp/>)をご覧ください。

国立大学法人京都大学について

京都大学は 1897 年の創立以来、本年(2014 年)で 117 年にわたる歩みを重ね、自由の学風のもと闊達な対話を重視するとともに、世界都市・京都において自主独立の精神を涵養し、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してきました。京都大学は、現在、およそ 5,500 名の教職員、22,800 名の学生を擁し、10 の学部、18 の大学院研究科等、加えて国内随一の多様性を誇る 14 の研究所、高等教育・学術研究を支える 17 の教育研究施設等を有するに至っています。また、広く世界に開かれた大学として国際交流を進め、多くの留学生、外国人研究者を受け入れるとともに、より良い教育・研究環境の整備に努め、様々な共同研究や、ノーベル賞等の受賞者を多数輩出する優れた研究を推進しています。

www.kyoto-u.ac.jp/

バイエル ヘルスケア社について

バイエルは、ヘルスケア、農業関連、先端素材の領域を中核事業とするグローバル企業です。バイエル社の一事業グループであるバイエル ヘルスケア社は、ドイツ・レバクゼンを本拠とし、189億ユーロ(2013年)の売上高を持つヘルスケアと医薬品業界の革新的なリーディングカンパニーです。同社の世界的な事業活動は、動物用薬品、コンシューマーケア、メディカルケア(画像診断関連製品、血糖自己測定器等)、医療用医薬品の分野に及びます。バイエル ヘルスケア社の目標は、人々と動物の健康を促進する製品を開発、製造、販売することです。バイエル ヘルスケア社は世界100カ国以上で56,000人(2013年12月31日現在)の従業員が働くグローバル企業です。

www.bayerhealthcare.com

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマーケア、ラジオロジー&インターベンショナル(画像診断関連製品)、動物用薬品(コンパニオンアニマルおよび畜産用薬品)の4事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、ウイメンズヘルスケア領域、眼科領域の4領域に注力しています。バイエル薬品は、Science For A Better Life (よりよい暮らしのためのサイエンス)の企業スローガンのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。

バイエル薬品ホームページ: <http://www.bayer.co.jp/byl>

バイエルの将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルグループもしくは各事業グループの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれています。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 (www.bayer.com) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。